

を  
る  
の  
校  
え  
域  
学  
支  
地  
力  
chikara

# 地域ぐるみで支援する学校教育

岡山県久米郡美咲町教育委員会

本町は岡山県の中央部に位置し、平成一七年三月二二日に旧三町（中央町・旭町・柵原町）が合併し美咲町として誕生しました。現在、町内には小学校五校、中学校三校があります。

学校支援地域本部事業に取り組んでいる旭小学校は、町西部に位置する旧旭町の旭川のほとりにあります。学区全体は山間地が多く近年過疎化が著しく進み、人口の減少に伴い児童数も年々減少しており、現在は全校生徒一四七名となりました。

家庭状況としては、共働き家庭が増加し、しかも勤務先は町外といった家庭が多くなっています。しかし保護者の教育に対する関心は高く、学校教育にもとても協力的な地域です。

本年度に全国でこの事業がスタートし、旭小学校は岡山県内で初めて取り組むこととなりました。

社会が複雑多様化し、子どもを取り巻く環境が大きく変わる中、「家庭や地域の教育力が低下した」といわれて

いる状況が事業開始の背景にあり、「教育」は学校、家庭、地域の連携協力のもとに進めていくことが大切であると認識され始めました。

教師だけでは担いきれない部分を地域が支援していくことと、ボランティアと教師との連携調整役となる「地域コーディネーター」を配置することがこの事業の特徴です。本町では、これまでもボランティアによる学校支援が行われており、地域にはボランティア活動が根づいていて、地域との信頼関係が構築されつつありました。そのため、昨年八月の旭小学校地域支援本部の立ち上げもスムーズにいき、九月から地域コーディネーターを中心に地域の人々と一体となった学校支援が始まりました。

## 取組のきっかけ

この事業を実施する決め手となったのは、旭小学校長が新たに四月に着任

し、学校経営計画を立てる中で、児童には、「わかる喜び・学ぶ楽しさ」を実感できる教育をし、地域教材の活用や地域に人材支援を要請することにより地域と一体になった親しまれる学校づくりを目指したいとの思いからこの事業への取り組みを考えました。旭地区は、もともと教育熱心な地域でもあることから、目標実現に向けての方策として、この事業が鍵になるのではないかと校長は考えました。

事業を進めていく上で重要なのは、地域と学校をつなぐ「地域コーディネーター」です。学校支援活動を行うさまざまな人材の調整、学校との連携策などを担い、その成果を左右する重要な存在です。「コーディネーターに適当な人材がない」という理由で事業に取り組めないという話も聞かれますが、旭地域では、幸いにも、この地域で民生委員や読み聞かせボランティア等幅広く活動されている最適な人材にめぐ



ボランティア研修会の様子

り会えました。

## 事業を支える四つの取組

本事業を円滑に進めるために、次のような取組をしました。

①職員を対象とした校内研修



九九の合格判定。2年生のかけ算の授業で、毎日ほぼ同じ数人のボランティアが入り、九九のチェックやうまくできたらシールを貼るなどの補助をしています。

## 支援活動内容（三つの分野）

### ●学習支援活動

給食指導の補助、清掃指導の補助、本の読み聞かせ、音読のチェック補助、九九のチェック補助、毛筆習字指導の補助、調理実習指導の補助、ミシン縫い・手縫い指導補助、水泳指導の補助（監視）、遠足時等の安全指導補助、教材づくり補助

### ●環境活動

図書登録、百葉箱修理、砂場踏切板

### ●安全・見守り活動

運動会、ぶどう狩り、写生、秋探し、店見学、バス遠足

事業をスタートさせて現在三か月が経過したところで、地域住民がボランティアとして学校の諸活動に参加することで子どもたちと親密になり、ボランティアの人々の豊富な知識や技術を学ぶことにより、子どもたちは自主的に学習する気持ちが芽生えてきつつあります。一方、学校支援ボランティアの方々もそれぞれの得意分野を

## 成果と課題

コーディネーターは、はじめは学校との連絡調整、授業を担当される先生との打ち合わせが上手くいくかどうか不安を抱えていましたが、学校側の配慮によって戸惑うことなく活動を行うことができて、安心して活動を行うことができます。今では、地域の方々の持っている知識・特技・技能などが学校教育の場で活かしているためのつなぎ役としてかかわっている喜びを実感しているとの声を聞いています。

活かす場ができ、コミュニケーションの輪が広がっています。ボランティアの中には保護者もいて、「実は学校の先生も大変なんだ」という会話も聞いています。この活動をとおり、学校の実態を地域の方々に見てもらい、悪いところは指摘していただき、良いところはどんどん広めていただき、地域や家庭が学校の良き理解者となればと思います。今後の課題として、教師とボランティアの考えの調整がさらに必要となつてくると思います。ボランティア側は教師の領域まで支援しないこと、また「学校」の教育の主たる人はあくまで教師であるとの認識のもとに、お互いの立場や領域・役割を理解し合うことが必要と考えています。

また、一部の教師にはボランティアにどう支援していただいたら良いか分からないといった悩みもあるようで、教師の意識も変えていく努力もしなければなりません。今年一二月からは町内で新たに小学校・中学校各一校が事業に取り組み予定です。今後は三つの中学校区それぞれに、この学校支援地域本部の運営がスムーズに運ぶよう美咲町教育委員会としても支援していきたいと考えています。

（生涯学習課主事 福田寿子）

事業の実施が八月ということ、夏休みを利用し教師を対象にこの事業についての研修を行いました。教師が事業の意義を正しく理解するとともに、授業にボランティアを取り入れるタイミングや指導の仕方などを研修しました。

### ② ボランティア研修会（ボランティア会員対象）

学習支援ボランティア会員は現在二八名の方々に参加していただいています

すが、ボランティアの心得（人権・守秘義務）や意識の向上・足並みをそろえるために全会員が研修を受けました。③ ボランティア連絡会（教員とボランティア会員）

ボランティア会員と教師が意見交換を行い、教師と会員がそれぞれの立場からお互いに感じた事や矛盾などから議論し、今後の運営について連絡・協議を行うこととしており年三回（旧学期ごと）実施する予定です。

### ④ コーディネーターとの連絡方法

学校とコーディネーターとの連絡方法はとても簡略になっており、各担任の思いを学校の窓口担当である教務主任が集約し、コーディネーターとメール連絡を行うだけのシステムで、スムーズな連絡調整を行うことができます。

コーディネーターは、はじめは学校との連絡調整、授業を担当される先生との打ち合わせが上手くいくかどうか不安を抱えていましたが、学校側の配慮によって戸惑うことなく活動を行うことができて、安心して活動を行うことができます。